

平成19年度第2回中原区区民会議

平成19年度第2回中原区区民会議が開催されました。

会議では「地域で取り組む環境対策～わたしたちにできる“環境”を考える～」をテーマに、地球温暖化にかかわる講演と地域での取り組みの様子をビデオで紹介した後、区民や地域で活動する団体が行える身近な取り組み、区民会議として取り組む環境対策などについて議論しました。

会議の内容は次のとおりです。

日時・開場など

平成19年10月25日（木）午後2時1分から午後4時29分

中原区役所5階会議室

会議の傍聴人 2名

会議次第

- ・開会
- ・会議録確認委員の選任
- ・議題「地域で取り組む環境対策」～わたしたちにできる“環境”を考える～
- ・ビデオ報告：「わたしたちにできる“環境”を考える～次世代につなぐ環境と地域での取り組み～」上丸子小学校、井田小学校、中原区子ども会議、とどろき水辺の楽校、中原区役所の取り組みから
- ・ゲストスピーカー：広瀬健二（川崎市環境局地球温暖化対策担当課長補佐）
- ・中原区協働推進事業について
平成19年度第2回協働推進事業検討部会報告
- ・閉会

議題検討における活動事例報告と主な委員意見

- ・現在、小杉2丁目町内会では、世界の子どもたちにワクチンを贈るため、ペットボトルのキャップを集める活動をしている。ふだんは普通ごみと一緒に焼却されているキャップを回収して樹脂メーカーに引き取ってもらい、その対価でジフテリアや小児麻痺のワクチンを届けることができる。ごみの減量にもなり、子どもから大人までだれにでもできるこの活動を中原区から発信し、皆さんと一緒に取り組んでいきたい。
- ・「30秒で世界を変えちゃう新聞」に、マイバッグを持って買い物に行く等、地球温暖化がとまる18項目のリストが載っていた。たくさんの人が自分にできることをや

っていけば、地球温暖化が少しでもとまるのではないかと思う。

- ・徹夜等が多い自分の生活の中から思うことは、電力消費節減のためにも仕事は昼の明るいうちにするとということである。ペットボトルのキャップについてはごみとして捨てていたので、反省している。
- ・子育てサロンの若いお母様方に、洋服はなるべく友達同士でお古を利用して、どんどん買わないよう呼びかけていきたい。野菜の皮や葉っぱを使ったエコクッキングについて、たくさんの知恵を持っている元気なおばあ様方にサロンに来ていただき、教えてもらいたい。
- ・大勢で飲んだり食べたりすることが多いので、マイ箸を持って生活しようかと思っている。環境問題に興味のない方がすごく多く、住んでいるマンションでもごみがたくさん出ているので、自治会から各家庭に個人ができることをやっていくよう働きかけていきたい。
- ・紙コップは1回使うとごみになってしまうが、ある会議で出席者の方がすてきなカップを持参していた。色とりどりのいろいろな形のカップが席の前に並べば、会話も和やかになり、時間内で会議も終わるのではないかと思う。ひとり暮らし高齢者の会食会でどんぶり型の発泡スチロールを使っているところもあるようだが、私のところでは瀬戸物のおわんを使い、洗うときも工夫して節水に心がけている。
- ・労働組合では、中国の砂漠化対策等も含めて植林を行っているところもある。会社の中では、もう既に割りばしをやめて、洗いばしを使うようにしている。ペットボトルとキャップは分別していて、1日何千個と出てくると思うので、少しでも役立てられればいいと思う。他の組織、組合でも同じようにやっていけば少しでも助かる方が増えると思うので、できるところから少しずつやっていきたい。
- ・地域の酒屋と商店街が中心になり、Rマークのついた酒瓶がどれだけ返却されるか調査するため、新城商店街連合会で国の環境省循環型社会形成実証事業に取り組むこととなったので、よろしくお願ひしたい。近々、第1回目の会議を立ち上げることになっている。
- ・環境対策としてできることは一人一人のライフスタイルによって違う。意識して自分ができることをやるのが非常に大事だと思う。マイバッグは持っていないが、できるだけ使用するレジ袋を減らす努力をしている。郵便受けに非常に多くのパンフレットが入ってくるが、できるだけ一般のごみに出さず、リサイクルペーパーとして出すことを心がけている。日本では再生にかなり力を入れているが、再生より再利用のほうに取り組むべきではないか。例えばペットボトルはできるだけ洗って再利用する試みが必要だと思う。
- ・捨てることが大嫌いなので、古着もぞうきんにして再利用している。
- ・牛乳紙パックや古切手を集めている方は、どこでどのように処理しているのか、ご

存じの方は教えていただきたい。それらはいつでもどこの家庭にもあるものなので、捨てずに再利用できるのであれば、市民活動につながると思う。

→牛乳紙パックは、例えば生協に発泡スチロール等と一緒に回収する場所が設置されており、再生紙となる。古切手は、外国の珍しいきれいな切手等の収集家がいるので、買い取る業者がいたりする。そこで発生したお金を慈善事業に使っている。（竹井副委員長）

- ・エコということは余り気にしないでふだん生活しているので、今日は自分が何もしていないのだということを感じている。いつもペットボトルのキャップを外してごみの中に入れていたが、もったいないと思っていたので、ぜひ回収してお届けしたい。区役所に回収場所を設置してはどうか。

→ペットボトルのキャップについては、数日前から役所に回収箱を設けている。

牛乳パックについても箱を設けてあり、少したまと生活環境事業所が回収に来て、リサイクルペーパーとなっている。（区長）

- ・中原区の緑被率は低く、新しく宅地ができるたびに緑が減っている。緑のカーテン事業は、上に伸びていくつる植物を使い、広いスペースを必要とせずに行うことができる。中原区区民会議が中心となって、緑のカーテンを全区の皆さんにアピールしてはどうか。
- ・マイカーをやめて自転車に乗ることはエコのために非常によいが、駅前等が自転車であふれ、一般通行者の邪魔にならないよう、ルールを守って乗っていただきたい。
- ・小さいことであるが、風呂の温度設定を1度下げて41度にし、2年ぐらい続けている。1度下げるだけでもガスの消費量が減り、温暖化防止につながっていくと思う。
- ・毎回上映されるビデオ作品は、とても興味深い内容で、よくできているので、区役所で流してほしいとお願いした件についてはどうなっているか。

→年度内に区役所1階で流すことができるよう準備を進めているので、もう少し時間をいただきたい。（事務局）

- ・ここにいる人たちは苦しい戦後の時代を生きてきたので、ある程度いろんなことができるが、子どもへの環境教育の徹底をどうするか、中原区区民会議から教育委員会に申し入れをするようなことがあってもいいと思う。私たちよりも子どもがどのように動くかということ、もう少し親として考えたい。
- ・西中原中学校PTAにご協力いただき、使わなくなったピアノカとリコーダーをエチオピアやカンボジアに届ける活動を15年ぐらい続けている。そのときに、川崎フロンターレからいただいた中古ボールも一緒に届けている。日本で役に立たないものも、すごく喜んでくれる子どもたちが世界にいるということを言いたい。皆様

が、自分だったらこういうものを集められるということがあれば、お声がけいただきたい。

- ・撤去された放置自転車はどのように処分されているか教えていただきたい。
→2カ月間保管した後、程度のよいものは市が協定を結んでいるリサイクル会社に売却し、程度の悪いものは廃棄している。収入額については後ほど調べてお答えする。（事務局）
- ・「もったいない」を実践し、無駄なく工夫して再利用しようということで、中原からエコ宣言をすることにはとても賛成である。
- ・本日の資料を見ると、お金がかかっている資料とお金がかかっていない資料とある。お金をかけるべきところにはしっかりかけていただきたいが、行政が本当に儉約するという気持ちを持っていただくのが将来的には非常に大事なことだと思う。区役所も、市民アンケートの概要版に予算をかけてこんなにもいいものを出すよりも、市民アンケートを継続していったって、その後の追跡調査のほうにお金をかけていただきたいと思う。
- ・ペットボトルや牛乳パックがどのように処理されているかということは、知っているようで意外に知らないと思う。キャップの回収が区役所で行われているのであれば、どのように処理されているのか説明する1行を加えて、定期的に市政だよりに掲載するとよいと思う。
- ・とどろき水辺の楽校でも、ペットボトルのキャップの回収を行っている。キャンプやいろいろなイベントの際、必ずマイ箸、マイおわん等は持っていくようにしているが、子どものほうが大人よりもきちんと持ってきているので、将来見込みがあると思う。
- ・生ごみを外へ出さないようにする工夫をここ数十年やっている。コンポストを2基置いて、1基はいっぱいになったらそのままにしておく。半年たった庭にまくという形で、2基を交互に使うことにより、家族4人ぐらいまでの生ごみを処理できる。庭にまくことで、花や木も非常に生き生きときれいに咲くので、皆さんにお勧めしたい。マンション向けのものも最近発売されている。
- ・話を聞いていて自分ができることといえば、ペットボトルのふたを集めることぐらいかと思う。医療関係では、ささやかなことではあるが、院内薬局で薬を処方する際は患者に必ず薬袋を持参してもらうようにしている先生もいる。院外薬局でもそのようにしていただければと思う。
- ・リサイクルよりリユースのほうがコスト的には絶対安い。西ドイツのペットボトルは、向こうが見えないくらい何回も使っている。今後、中原区としては、区長のようなお茶わんやマイボトルを持参するにすれば、カラフルですばらしい会議になると思う。いろいろな意見が出たが、小さなことでもいいから、少しずつ区民会

議の意見を実行に移していきたいというのが皆さんの意見だと思う。緑のカーテンについては他区でも大分気にして見ているようなので、中原区はいろいろな意味で先鞭をつけていきたい。

・地球温暖化がとまる18項目のリストの話があったが、余り基準を設けて戦争中のようなことを繰り返してやりたくはないという気持ちもある。衛生的なことも考えて、快適に笑って生活できるようにしていきたい。本日は思いがけずいろいろな意見が出たが、住みよいまちづくりのため、すべて中原区が先駆けて出発していきたいという気持ちがあらわれている。それには、市会、県会の皆様のお力も十分反映していただいて、川崎市の中で断トツに住みよいまちを目指していきたいと思っている。皆様のご意見はすばらしいので、区役所のお力をおかりして実現していきたい。

・行政がこんなに立派なパンフレットを作成する必要があるかどうか、それは経費の面でも言えることであるが、余りにも立派な紙になると逆に再生できず、捨てるしなくなってしまうので、そういう面もご検討いただきたい。

→紙については、確かに立派なものもあり、区民会議の報告書に対しても意見をいただいているので、検討させていただきたい。（事務局）

・牛乳パックをリサイクルするのはいいが、一つ一つを洗うために使用する水や労力を考えると、再利用する意味があるのか、データはないが、個人的に昔から不思議に思っていた。自分が納得しないとやりたくないという気持ちもあるので、どなたか、おわかりになれば教えていただきたい。

→なかなか難しく、回答できる方が多分いないだろうと思うので、環境局に聞いて次回報告させていただく。（竹井副委員長）

・たくさん出た意見を大きく分けると、リユースとリサイクルということだった。物を使わない、もらわないというような方向にライフスタイルを変えていくやり方もあるのかなと思う。

・環境に対する意識に親と子ども間でギャップが生じていて、逆に親のほうがよく理解していないところがある。そういう情報発信をだれがしていくか、どう伝えていくかというのは大切なことだと思う。

・区民会議発のエコ宣言をし、一つ一つの町内会に説明していくとか、いろいろな団体があるので、そういうところで年に1回ぐらい勉強会や説明会をしていければいいと思う。区民会議が中心となり、区役所と一緒にやっていきたい。

・開発で高層ビルやマンションがたくさんできているが、それに対応して緑化するという考え方は市にはないのか。

→今まで工場だったところに新たにマンションが建つと、その周りに緑を植栽するということで緑被率は高まっていると思う。ただ、マンションそのものはコン

クリートの建物なので、熱を帯びて暑くなるということはあるかと思うが、緑は比較的ふえていると思う。緑を多くすることによって、建物の高さを高くするなどの都市計画決定を行ったりもしている。（事務局）

→土地を上から平面で見た場合に敷地面積に対して何%の建物が建てられるか、どれだけの高さの建物を建てられるかを示す、建ぺい率、容積率といった都市計画上のルールがある。建物の高さを増やすことによって敷地の空間をつくるということで、小杉の開発エリアの超高層マンションを上から見ると敷地にかなり空間があり、そこは緑地化していく形で整備を進めている。（区長）

- ・エコに関する取り組みについては、町会や自治会に加入している方々には区民会議の委員が中心となってPRしていくことができるが、ワンルームマンション等でひとり暮らしをしている若い人たちにどのように周知徹底するかということも問題である。行政と地域が一体となって対策を立てながら進めていかなければ、肝心なところで抜け落ちてしまうと思う。

中原区協働推進事業についての主な委員意見

- ・介護予防マップ作成推進事業は非常にすばらしい考えだと思う。
- ・働いている妊婦への支援事業のところで助産師や保健師等、専門家を中心とした講演会と書いてあるが、そこに産科と小児科の医師を入れていただきたい。今はお産難民とか、産科の医者が少ないと言われ、非常に問題になっているので、ぜひここに入れていただきたい。